

クラス道徳

「秀さんの心」

あらすじ

造園業を営む事業所で職場体験をすることになった中学2年の昌雄と久志は、造園職人の親方である秀さんと出会います。職人氣質の秀さんは、礼儀を大切にし、仕事に手を抜くことがありません。秀さんに厳しく仕事を教わる昌男と久志でしたが、職場体験の最終日、寝坊した昌雄のせいで二人は作業場に遅刻してしまいます。どぎまぎしながらも正直に寝坊したことを話す二人の姿を見て、秀さんは怒鳴ることなく、「無事に着いてよかった。さあ、仕事を始めよう」と言って、仕事に取りかかります。若い職人の伸さんから、秀さんが二人をととても心配していたことを聞かされ、伸さんに「秀さんに言うことがあるだろ」と言われた昌雄と久志は、枝を切る木の前に立ち、深くお辞儀をする秀さんの姿にだんだん胸が熱くなるのを感じます。

朝の挨拶もまともにできんのか。遅刻しないだけでしたが、挨拶もできないようじゃ、一人前の職人になれんぞ。

このとき、秀さんはどんな思いで注意しているのだろう？



オース、秀さん。
間に合った。セーフ



秀さん、最初は怒っていたけれど、
君たちが事故にでも遭ったんじゃないかと、とても心配していたんだよ。



**礼儀作法は
堅苦しいものではなく
単なる形式でもない、
社会生活の潤滑油です。**

(松下幸之助)

<みんなの感想>

- ・昌雄は、礼儀正しくお客様の前で礼をしていなかったけど、人だけじゃなく木にも礼儀正しくしている秀さんを見て、これからはしっかりと礼をしないとイケないなと思ったんじゃないかなと思いました。(Nさん)
- ・「礼儀」って社会で生きていくうえで避けて通れないし、とても大事なものやと思う。あと「礼儀」って「思いやり」でもあると思う。お客様に対する「思いやり」、木に対する「思いやり」。秀さんはそれを分かっているから、いつも礼儀に厳しい。その背中を見ることができて昌雄たちは良かったと思う。(Oさん)
- ・今日の授業で、私は礼儀は周りに合わせてするものではなくて、自分から気をつけてするものだと思います。自分だけがするのではなく、周りにも影響を与えることができるようにしたいです。先生が始めにした挨拶でも印象とかが決まってくるので大事にしようと思いました。(Kさん)
- ・礼儀は職場体験だけでなく、学校でも社会に出ても必要なことやし、出来ていないと恥ずかしいことなので、しっかりと礼儀が出来るようにしていきたいです。(Kくん)
- ・秀さんが昌雄くんに怒ったのは、思いやりだと思った。礼儀があれば社会に通用するし、礼儀がなかったら仕事などもきちんとできないと思うので礼儀をきちんとして社会に通用するようになりたい。(Iくん)
- ・あいさつは人やものに対して、感謝をすることだと思います。でも、そのあいさつは礼であったり、深くお辞儀をする方が絶対いいと思います。少し秀さんを見習おうと思いました。(Yさん)
- ・礼儀は、気持ちを行動に表してこそ、相手に伝わるものだと思う。秀さんは職場体験を通じて、社会で一番大切なことを教えてくれたと思う。(Eさん)
- ・今日の授業で、秀さんは昌雄たちに人としての礼儀を教えたかったからしっかりあいさつをしないから怒ったんだと思う。このことで昌雄はしっかりあいさつをするようになったと思う。(Yくん)
- ・礼を大切にしている秀さんと礼儀の大切さを教えてもらった二人はなぜ秀さんがこだわるのかが分かって胸が熱くなるのを感じたのだと思う。(Nくん)
- ・何に対しても気持ちや礼儀が必要ってことが分かった。あいさつも気持ちを込めてしたいと思った。(Kさん)

挨拶するのも、応えるのも面倒。

敬語を使うことが恥ずかしい。

形だけのお辞儀をしてしまう。

……そんなことはないだろうか？

礼儀の大切さが分かっているけど、実際に振る舞えなかったのはなぜだろう？

これからのみんなはどのように行動していくのだろうか？